

外壁用遮熱塗装工法

クールテクト®工法

水性

低汚染・超耐久型水性ふっ素樹脂系遮熱塗料

水性クールテクトF

低汚染・超耐久型水性アクリルシリコン樹脂系遮熱塗料

水性クールテクトSi

低汚染・超耐久型水性弾性アクリルシリコン樹脂系遮熱塗料

水性弾性クールテクトSi

弱溶剤

低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料

クールテクトF

低汚染・超耐久型アクリルシリコン樹脂系遮熱塗料

クールテクトSi

省エネは壁から

新築

塗り
替え

太陽光による外壁の温度上昇を低

クールテクト工法は微弾性を持つ下塗り層と、遮熱性・低汚染性を持つ上塗り層で構成され、太陽光による外壁の温度上昇を低減させる外壁用遮熱工法です。従来の外壁用塗料と比較して、塗膜裏面温度を最大-17℃低減します（当社規定のランプ試験による）。外壁を遮熱することで室内温度の上昇を抑制すると共に、壁面自体の温度上昇が低減されるため、劣化要因の一つである熱劣化を抑制します。さらに下地基材の熱による膨張収縮も緩和します。

水性

低汚染・超耐久型水性ふっ素樹脂系遮熱塗料
水性クールテクトF

低汚染・超耐久型水性アクリルシリコン樹脂系遮熱塗料
水性クールテクトSi

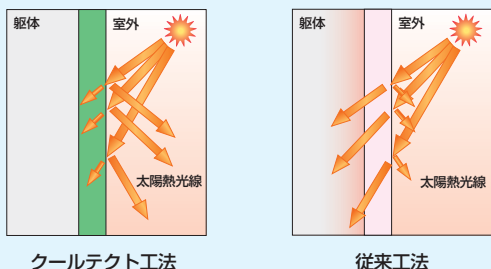
低汚染・超耐久型水性弾性アクリルシリコン樹脂系遮熱塗料
水性弾性クールテクトSi

弱溶剤

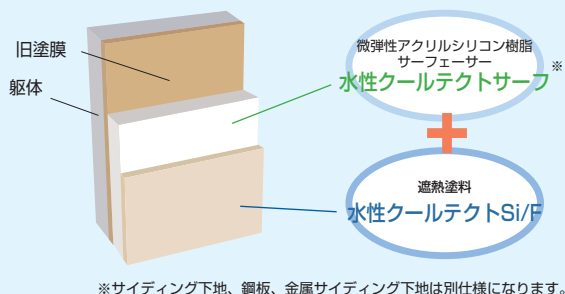
低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料
クールテクトF

低汚染・超耐久型アクリルシリコン樹脂系遮熱塗料
クールテクトSi

クールテクト工法は、太陽熱光線の反射性能に優れています。(高反射性)



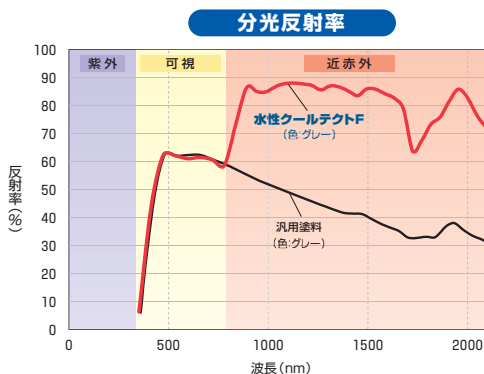
《モルタル、コンクリート改装下地の場合》



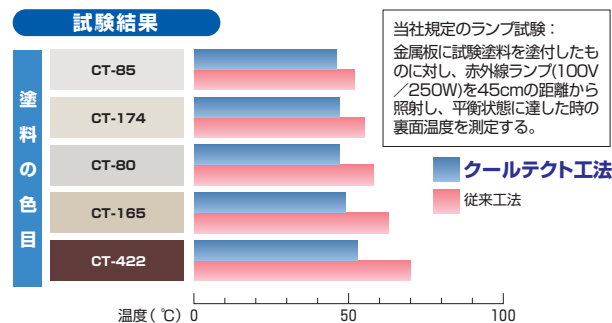
※サイディング下地、鋼板、金属サイディング下地は別仕様になります。

幅広い色相で優れた遮熱性を発揮

熱線反射機能を持つ上塗材は太陽光のうち、近赤外線（熱線）を高反射し、幅広い色相範囲で夏季の熱暑から躯体の温度上昇を抑制し、冷房負荷を低減します。（遮熱効果は色により異なります）



色別の遮熱性能比較 (当社規定のランプ試験による)



当社規定のランプ試験：
金属板に試験塗料を塗付したものに
対し、赤外線ランプ(100V / 250W)を45cmの距離から
照射し、平衡状態に達した時の
裏面温度を測定する。

サーモグラフィーで分かる温度差

■試験条件

測定日：2009年8月
場所：当社技術研究所 屋上（大阪府）
天候：晴れ 最高気温：33℃
外壁：ALC

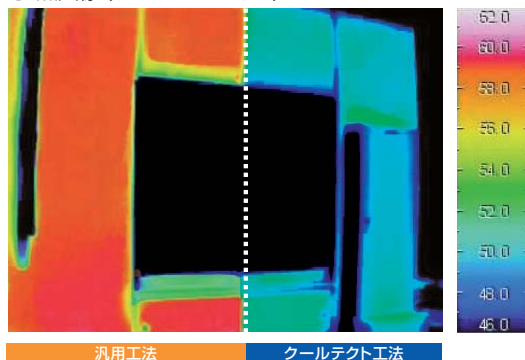
■試験概要

塔屋（ペントハウス）南面の外壁に一般塗料（写真左）とクールテクト工法（写真右）をそれぞれ塗装し、夏期日中の外壁表面の温度上昇をサーモグラフィーで撮影。結果、最大約11℃の温度差が確認されました。

●可視画像



●熱画像（サーモグラフィー）



減し、室内の省エネに貢献します。^{注)}

上塗りにはアクリルシリコン樹脂系塗料、あるいはふっ素樹脂系塗料を採用しているため優れた耐候性を示します。さらに下塗りのサーフェーサーにも耐候性の高いアクリルシリコン樹脂系塗料を採用しているため、耐久性に優れ、メンテナンスサイクルを飛躍的に伸ばすことができます。

注. 省エネ効果は、建物の構造、断熱材の使用状況、立地条件、塗装仕様などにより異なります。
※ 屋根には屋根用遮熱塗料としてクールタイトシリーズがあります。併せてご検討ください。

高耐久性

上塗りには架橋タイプのアクリルシリコン樹脂エマルジョンや、ふっ素樹脂エマルジョンをバインダーに採用しているため、強靱な塗膜を形成し、紫外線などの塗膜劣化要因に対して優れた抵抗性を示します。また、遮熱機能により表面温度が低減されるため、熱による劣化抑制にもつながります。

防水性

(水性クールテクトサーフ/レナフレンド)

微弾性を示す下塗り層(水性クールテクトサーフ)が、旧塗膜に発生しているひび割れ、巣穴などを覆い、防水性の向上につながります。また新築時においても、レナフレンド主材またはレナフレンドローラー用主材と、水性弾性クールテクト Si の組み合わせにより、優れた防水性を発揮します。

幅広い塗り替え適性

(水性クールテクトサーフ)

微弾性を示す下塗り層が、各種旧塗膜と強固に付着するため、塗り替えに最適です。また、断熱性能の高い下地基材の塗り替えにも、遮熱による表面温度の低減があり、塗膜の膨れ抑制につながります。

防かび・防藻性

特殊設計により、かびや藻類などの微生物汚染を防ぎ、衛生的な環境を維持します。

適用下地

モルタル、コンクリート、窯業系サイディング、鋼板、金属サイディング

旧塗膜：エマルジョンペイント、リシン、スタッコ、吹付タイル、単層弾性塗材等の活膜下地

<改装>

基 材	下 塗 り	上 塗 り
モルタル、コンクリート、PC部材	水性クールテクトサーフ	水性クールテクトSi/F
	クールテクトプライマー	クールテクトSi/F
窯業系サイディング	水性クールテクトプライマー	水性クールテクトSi/F
	クールテクトプライマー	クールテクトSi/F
鋼板、金属サイディング	クールテクトプライマー	クールテクトSi/F

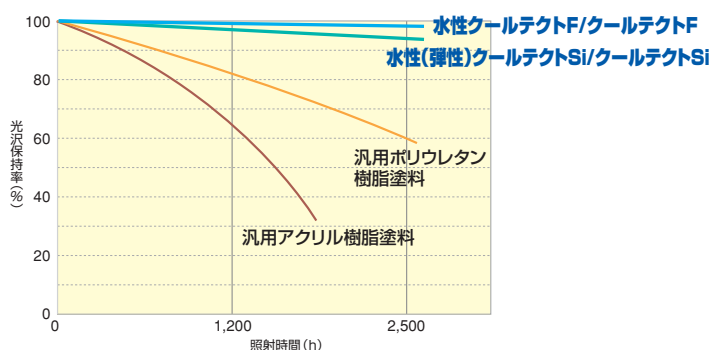
- ※1 基材により、下塗材の種類が変わります。
- ※2 基材が鋼板、金属サイディングの場合は、弱溶剤タイプの★クールテクトSi/Fをご使用ください。
- ※3 水性クールテクトサーフの上塗材として、★クールテクトSi/Fはご使用できません。
- ※4 旧塗膜の種類によっては、別途下地処理が必要な場合があります。詳しくは、最寄りの各営業所へお問い合わせください。
- ※5 この他下塗材として、組み合わせによっては、水性SDサーフエポプレミアム(15kg石油缶)、★マイルドSDサーフエポプレミアム(15kg石油缶)、エスケープ弾性プレミアムフィラー(15kg石油缶)もご使用いただけます。詳しくは、最寄りの各営業所へお問い合わせください。

<新築>

基 材	下 塗 り	上 塗 り
モルタル、コンクリート	水性クールテクトプライマー (水性クールテクトサーフ)	水性クールテクトSi/F
	水性クールテクトプライマー (レナフレンド主材/レナフレンドローラー用主材)	水性弾性クールテクトSi
鋼板、金属サイディング	クールテクトプライマー	クールテクトSi/F

- ※1 PC部材の新築仕様は別途お問い合わせください。
- ※2 水性クールテクトサーフの上塗材として、★クールテクトSi/Fはご使用できません。

促進耐候性試験 (キセノンランプ)



低汚染性により遮熱効果を持続

低汚染性にも優れているため、長期に亘り遮熱性を維持します。

【汚染性比較：屋外暴露6ヶ月】



荷姿

- 水性クールテクトサーフ(白) 16kg石油缶(10~53㎡/缶)
- 水性クールテクトプライマー(白) 15kg石油缶(50~150㎡/缶)
- ★クールテクトプライマー(白) 16kgセット(主剤12.8kg, 硬化剤3.2kg)(94~114㎡/セット)
4kgセット(主剤 3.2kg, 硬化剤0.8kg)(24~28㎡/セット)
- レナフレンド主材 20kg石油缶(7~9㎡/缶)
- レナフレンドローラー用主材 20kg石油缶(8~12㎡/缶)
- 水性クールテクトSi(艶有り, 3分艶) 16kg石油缶(45~64㎡/缶)・4kg缶(12~16㎡/缶)
- 水性弾性クールテクトSi(艶有り, 3分艶) 16kg石油缶(45~64㎡/缶)・4kg缶(12~16㎡/缶)
- 水性クールテクトF(艶有り, 3分艶) 16kg石油缶(45~64㎡/缶)・4kg缶(12~16㎡/缶)
- ★クールテクトSi(艶有り, 3分艶) 15kgセット(主剤13.5kg, 硬化剤1.5kg)(50~57㎡/セット)
4kgセット(主剤 3.6kg, 硬化剤0.4kg)(14~15㎡/セット)
- ★クールテクトF(艶有り, 3分艶) 15kgセット(主剤13.5kg, 硬化剤1.5kg)(50~57㎡/セット)
4kgセット(主剤 3.6kg, 硬化剤0.4kg)(14~15㎡/セット)
- ★塗料用シンナーA 16ℓ石油缶

- 注1) ★クールテクトF、★クールテクトSi、★クールテクトプライマーの可使時間は5時間(23℃)です。
- 注2) 上記の標準塗率は一般的なものであり、下地の状態や環境などによる所要量の増減に応じて変わることがあります。ご了承ください。

用途

- ・ 戸建て住宅、マンションの外壁
- ・ 店舗、事務所、工場、倉庫などの外壁
- ・ 学校など公共施設の外壁

●危険情報と安全対策

製品の取り扱い、それぞれの安全データシート(SDS)に従ってください。
特に★印のついている製品は溶剤形の製品であるため、下記の点にご注意ください。
1. 引火性の液体のため、火気厳禁です。
2. 有機溶剤中毒のおそれがあるため、換気に注意し、防毒マスクまたは、送気マスクを使用するなどの安全対策を行ってください。
3. 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。
※ 屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

●施工後の注意

本製品には揮発性の化学物質が含まれております。塗装直後の引渡し等において、化学物質過敏症やアレルギー体質の方への安全対策に十分留意してください。



標準色

★ CT-103	★ CT-410	★ CT-174	★ CT-164
★ CT-85	★ CT-407	★ CT-175	★ CT-133
CT-80	CT-409	CT-108	CT-165
CT-75	CT-104	CT-168	CT-113
CT-70	CT-406	CT-169	★ CT-403
CT-177	CT-412	CT-132	CT-404
CT-420	CT-416	※ CT-422	※ CT-423

●印刷のため実際の色目とは異なります。実際の色目に関しては、見本帳でご確認ください。

- ※印は材料費が割高になりますのでご了承ください。
- 従来工法の同じ色と比較した際の温度差は、明度、彩度が低い色ほど差がでてきます。
- ★印の色は淡彩色のため、従来工法の同じ色と比較した際の遮熱効果は小さくなります。詳しくは最寄りの各営業所へお問い合わせください。
- 色目により常備在庫されていないものがあります。また掲載色以外にも（一社）日本塗料工業会の塗料用標準色 2021 年L版などで選択できる色があります。詳しくは、最寄りの各営業所へお問い合わせください。
- 景観法や条例に基づき「景観色彩ガイドライン」が制定されている地域では、使用できる建築外装の色彩が制限されます。このため地域によっては使用できない色彩も本見本帳に含まれている場合があります。また「景観色彩ガイドライン」は地域によって異なりますので、詳しくは建設地域の行政へお問い合わせの上、基準内の色彩をお使いください。

◎遮熱グレード



注：遮熱グレードは、「JIS K 5602 塗膜の日射反射率の求め方」に準拠して測定した、日射反射率(近赤外線域)を基にしています。なお、日射反射率は、下地の状態や施工環境、塗装仕様によって多少の差を生じます。

標準施工仕様（改装仕様）

【モルタル・コンクリート下地+旧塗膜】

（薄付け仕上げ）

（23℃）

工程	材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗 回 数	間 隔 時 間 (hr)			備 考	
					工程内	工程間	最終養生		
1	下地調整							・旧塗膜に脆弱部のある場合は、サンダー及び皮スキ、ケレン棒などを用いて除去し、ミラクファンドKC-1000などで段差修正後、パターンの復元を行ってください。なお、セメント系下地調整塗材（ミラクファンドKC-1000、ミラクファンドKC-2000、ミラクファンドKC-3000など）を用いる場合は下地調整後、水性ミラクシーラーエコなどの下塗材を塗付してください。 ・高圧水洗（5～15MPa=50～150kgf/cm ² ）にて旧塗膜に付着している塵、ほこり、汚れなどを除去してください。	
2	※1 下塗り	水性クールテクトサーフ	100	0.30～1.0	1～2	3以上	3以上	—	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量：600～1000ml/分 パターン幅：25～30cm ノズル径：4～5mm 圧力：392～588kPa (4～6kgf/cm ²)
		清水	5～8						
3	※2,3 上塗り	水性クールテクトSi/F	100	0.25～0.35	2	2以上	—	24以上	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量：800～1000ml/分 パターン幅：25～30cm
		清水	0～20						

＜下地のパターンを生かす＞



薄付け仕上げ

（厚付け仕上げ）

（23℃）

工程	材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗 回 数	間 隔 時 間 (hr)			備 考	
					工程内	工程間	最終養生		
1	下地調整							・旧塗膜に脆弱部のある場合は、サンダー及び皮スキ、ケレン棒などを用いて除去し、ミラクファンドKC-1000などで段差修正後、パターンの復元を行ってください。なお、セメント系下地調整塗材（ミラクファンドKC-1000、ミラクファンドKC-2000、ミラクファンドKC-3000など）を用いる場合は下地調整後、水性ミラクシーラーエコなどの下塗材を塗付してください。 ・高圧水洗（5～15MPa=50～150kgf/cm ² ）にて旧塗膜に付着している塵、ほこり、汚れなどを除去してください。	
2	※1 下塗り	水性クールテクトサーフ	100	0.8～1.5	1～2	6以上	6以上	—	M-9ローラー (マッシュクローラー)
		清水	2～5						
3	※2,3 上塗り	水性クールテクトSi/F	100	0.25～0.35	2	2以上	—	24以上	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量：800～1000ml/分 パターン幅：25～30cm
		清水	0～20						

＜下地のパターンを変える＞



厚付け仕上げ

【サイディング下地+旧塗膜】

【オール水性仕様】

（23℃）

工程	材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗 回 数	間 隔 時 間 (hr)			備 考	
					工程内	工程間	最終養生		
1	下地調整							・旧塗膜に脆弱部のある場合は、サンダー及び皮スキ、ケレン棒などを用いて除去してください。 ・高圧水洗（5～15MPa=50～150kgf/cm ² ）にて旧塗膜に付着している塵、ほこり、汚れなどを除去してください。	
2	下塗り	水性クールテクトプライマー	既調合	0.10～0.30	1～2	2以上	2以上	—	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量：600～1000ml/分 パターン幅：25～30cm
3	※2,3 上塗り	水性クールテクトSi/F	100	0.25～0.35	2	2以上	—	24以上	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量：600～1000ml/分 パターン幅：25～30cm
		清水	0～20						

注)この他下塗材として、水性SDサーフエポプレミアム(15kg石油缶)もご使用頂けます。詳しくは最寄りの各営業所へお問い合わせください。

【弱溶剤仕様】

（23℃）

2	※5 下塗り	クールテクトプライマー 主剤	100	0.14～0.17	1	—	6以上 14日以内	—	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量：600～1000ml/分 パターン幅：25～30cm
		クールテクトプライマー 硬化剤	25						
		塗料用シンナーA	0～10						
3	※6,7 上塗り	クールテクトSi 主剤/F 主剤	100	0.26～0.30	2	3以上 7日以内	—	24以上	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量：600～1000ml/分 パターン幅：25～30cm
		クールテクトSi 硬化剤/F 硬化剤	11.1						
		塗料用シンナーA	0～20						

注)この他下塗材として、★マイルドSDサーフエポプレミアム(15kg石油缶)もご使用頂けます。詳しくは最寄りの各営業所へお問い合わせください。

【鋼板、金属サイディング下地+旧塗膜】

（23℃）

工程	材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗 回 数	間 隔 時 間 (hr)			備 考	
					工程内	工程間	最終養生		
1	※4 下地調整							・高圧水洗で、ごみや汚れ、こけ・死膜などを完全に除去してください。 ・高圧水洗ができない場合、ホースで水を流しながらデッキブラシ、たわしなどで表面に付着したごみや汚れ、こけ・死膜などを完全に除去してください。 ・部分的にさびが発生している場合、ディスクサンダーやワイヤブラシ、サンドペーパーなどを用いて、さびを入念に除去してください。 ・旧塗膜に浮きや剥離箇所があれば、その周辺を含め入念にケレン除去してください。	
2	※5 下塗り	クールテクトプライマー 主剤	100	0.14～0.17	1	—	6以上 14日以内	—	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量：600～1000ml/分 パターン幅：25～30cm
		クールテクトプライマー 硬化剤	25						
		塗料用シンナーA	0～10						
3	※6,7 上塗り	クールテクトSi 主剤/F 主剤	100	0.26～0.30	2	3以上 7日以内	—	24以上	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量：600～1000ml/分 パターン幅：25～30cm
		クールテクトSi 硬化剤/F 硬化剤	11.1						
		塗料用シンナーA	0～20						

【施工上の注意点】

- ※1. 旧塗膜の劣化状態によりシーラーや目荒しが必要な場合があります。詳しくは、最寄りの各営業所へお問い合わせください。
- ※2. 清水での希釈率は、色目及び施工時の気温により変化することがありますのでご了承ください。
- ※3. 清水での希釈率はスプレー塗り時で「10～20」、刷毛・ローラー塗り時で「0～10」となります。
- ※4. 塗膜表面の不純物除去が不十分な場合、光沢のある仕上がりが得られなかったり、経年後、塗膜の剥れ、割れなどの原因になることがあります。また、金属露出部がある場合は発錆防止のため、水洗後の水分を直ちに拭き取ってください。
- ※5. ★クールテクトプライマーを使用した塗装器具は★ラッカーシンナーなどで洗浄してください。
- ※6. ★塗料用シンナーAでの希釈率は、色目及び施工時の気温により変化することがありますのでご了承ください。
- ※7. ★塗料用シンナーAでの希釈率はスプレー塗り時で「10～20」、刷毛・ローラー塗り時で「0～10」となります。
- ※8. ★塗料用シンナーAで希釈する製品については、★塗料用シンナーAの他、★塗料用シンナーXもご使用いただけます。ただし、その他の材料の使用は避けてください。
- ※9. 旧下地がALC/パネルの施工については、最寄りの各営業所へお問い合わせください。

標準施工仕様（新築仕様）

【モルタル・コンクリート下地】 (平滑仕上げ)

(23℃)

工程	材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備考	
					工程内	工程間	最終養生		
1	素地調整	下地はよく乾燥させ、含水率10%以下、pH10以下としてください。 付着物は完全に除去し、傷、不陸、目違いなどは補修調整してください。							
2	下塗り	水性クールテクトプライマー	既調合	0.10~0.13	1	—	2以上	—	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量:600~1000ml/分 パターン幅:25~30cm
3	上塗り	水性クールテクトSi/F	100	0.25~0.35	2	2以上	—	24以上	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量:600~1000ml/分 パターン幅:25~30cm
		清水	0~20	—					

(複層仕上げ)

(23℃)

工程	材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備考	
					工程内	工程間	最終養生		
1	下地調整	下地はよく乾燥させ、含水率10%以下、pH10以下としてください。 付着物は完全に除去し、傷、不陸、目違いなどは補修調整してください。							
2	下塗り	水性クールテクトプライマー	既調合	0.10~0.13	1	—	2以上	—	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量:600~1000ml/分 パターン幅:25~30cm
3	中塗り	水性クールテクトサーフ	100	0.8~1.5	1~2	6以上	6以上	—	M-9ローラー (マッシュクローラー)
		清水	2~5						
4	上塗り	水性クールテクトSi/F	100	0.25~0.35	2	2以上	—	24以上	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量:800~1000ml/分 パターン幅:25~30cm
		清水	0~20	—					

(防水形複層仕上げ/吹放し仕上げ/凸部処理仕上げ)

(23℃)

工程	材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備考	
					工程内	工程間	最終養生		
1	下地調整	下地はよく乾燥させ、含水率10%以下、pH10以下としてください。 付着物は完全に除去し、傷、不陸、目違いなどは補修調整してください。							
2	下塗り	水性クールテクトプライマー	既調合	0.10~0.13	1	—	2以上	—	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量:600~1000ml/分 パターン幅:25~30cm
3	主材塗り① (基層塗り)	レナフレンド主材	100	1.5~1.8	1	—	3以上	—	リンガン 口径:4~6mm 圧力:490~686kPa (5~7kgf/cm ²)
		清水	3~5	—					
4	主材塗り② (模様塗り)	レナフレンド主材	100	0.7~0.9	1	—	吹放し 18以上 凸部処理 0.5以内	—	タイランガン 口径:6.5~8mm 圧力:392~588kPa (4~6kgf/cm ²)
		清水	0~2	—					
5	凸部処理	※1 ブラスチックローラーに塗料用シンナーAを付けて凸部を押さえる。							
6	上塗り	水性弾性クールテクトSi	100	0.25~0.35	2	2以上	—	24以上	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量:800~1000ml/分 パターン幅:25~30cm
		清水	0~20	—					

(防水形複層仕上げ/ゆず肌状ローラー仕上げ) 下地調整、下塗り、上塗り工程は上記参照

(23℃)

3	主材塗り	レナフレンドローラー用主材	100	1.6~2.4	2	16以上	18以上	—	M-9ローラー (マッシュクローラー)
		清水	2~3	—					

【鋼板、金属サイディング下地】

(23℃)

工程	材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備考	
					工程内	工程間	最終養生		
1	素地調整	被塗装表面のミルスケール、ほこり、油脂分、水分などを除去し、清浄にしてください。 さびや粉化物はサンドペーパーやディスクサンダーなどで十分に除去してください。							
2	下塗り	クールテクトプライマー 主剤	100	0.14~0.17	1	—	6以上 14日以内	—	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量:600~1000ml/分 パターン幅:25~30cm
		クールテクトプライマー 硬化剤	25						
3	上塗り	塗料用シンナーA	0~10	0.26~0.30	2	3以上 7日以内	—	24以上	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量:600~1000ml/分 パターン幅:25~30cm
		クールテクトSi 主剤	100						
		クールテクトSi 硬化剤	11.1						
3'	上塗り	塗料用シンナーA	0~20	0.26~0.30	2	3以上 7日以内	—	24以上	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量:600~1000ml/分 パターン幅:25~30cm
		クールテクトF 主剤	100						
		クールテクトF 硬化剤	11.1						
		塗料用シンナーA	0~20	—					

【施工上の注意点】

- ※1. 灯油などの材料の使用は、絶対に避けてください。
- ※2. 清水での希釈率は、色目及び施工時の気温により変化することがありますのでご了承ください。
- ※3. 清水での希釈率はスプレー塗り時で「10~20」、刷毛・ローラー塗り時で「0~10」となります。
- ※4. ★クールテクトプライマーを使用した塗装器具は★ラッカーシンナーなどで洗浄してください。
- ※5. ★塗料用シンナーAでの希釈率は、色目及び施工時の気温により変化することがありますのでご了承ください。
- ※6. ★塗料用シンナーAでの希釈率はスプレー塗り時で「10~20」、刷毛・ローラー塗り時で「0~10」となります。
- ※7. ★塗料用シンナーAで希釈する製品については、★塗料用シンナーAの他、★塗料用シンナーXもご利用いただけます。ただし、その他の材料の使用は避けてください。
- ※8. 下地の種類によっては、下塗材の選定が必要になります。特に押出成形セメント板、GRC板、PC部材などには、下塗材として★エスケーハイブリッドシーラー-EPO (15kgセット)、または★マイルドシーラー-EPO (14kgセット) をご使用ください。なお、軽質PC部材への施工は避けてください。
- ※9. ALCパネルへの施工については、最寄りの各営業所へお問い合わせください。

【改装・新築共通の施工上の注意点】

- ・上塗材の希釈率は、試験塗りなどにより決定し、それ以降は同一の希釈率にて使用してください。なお、希釈率は色目及び施工時の気温により変化することがありますのでご了承ください。
- ・濃色や原色に近い色彩は、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類などが触れる可能性のある部位への施工は避けてください。
- ・上塗りにてイエロー、レッド、ブルー、グリーン系など彩度の高い色目を塗装する場合は、隠ぺい性を高めるため、予め隠ぺい性の良い共色を塗装してください。
- ・★クールテクトSi/Fは、異なる色目でも塗り重ねる場合、2回目の上塗りが1回の上塗りを消かし、ラインや帯かたじむ場合がありまますのでご注意ください。
- ・艶調整品(3分艶)は、被塗物の形状、膜厚や色相、塗回数、希釈率の差などにより、実際の艶と若干異なって見える場合があります。また、刷毛・ローラー塗装時に塗継ぎ箇所を触むらを生じやすい傾向があります。試し塗りの上、本施工に入ってください。
- ・施工部位により、低汚染性が十分に発揮されないケースがあります。特に、傾斜壁の下端部、窓木などの水切りのない部位、窓廻りや水切りが不十分な場合、汚れが溜まりやすい目地の下側、雨がからまない部位などは、注意が必要です。
- ・施工当日に降雨、降雪、結露が予想される場合は、施工を中止してください。また、気象の急変などにより、施工中、施工後に降雨が生じた場合はシート養生などを行い、塗装面に直接雨がからないようにしてください。
- ・上塗材はむらなく均一に塗付してください。低汚染機能を発揮するためには、塗付量の確保が重要な事項です。特に凹部に塗れ残しがないよう、注意してください。また、タッチアップに使用する上塗材の主剤、硬化剤は予め良く攪拌、沈降分離してないものを必ず計量器を用いて計量し、電動ミキサーなどで十分に攪拌(2分以上)したものを使用し、製品容器に記載の可使用時間以内に使い切るようにしてください。
- ・上塗材は所定の乾燥時間(最終養生時間)を厳守してください。施工後、塗膜が乾燥するまでの時間内に降雨などにより長時間、水分がかかった状態になりますと、所定の低汚染機能が発揮されない場合があります。低汚染機能は、乾燥後の塗膜で発揮されるため、乾燥過程で降雨などが予想される場合は、シート養生を行うなどして、塗膜表面に雨があたらないよう、所定の乾燥時間を厳守してください。
- ・鉄さび・シーリング材などが原因の汚染物質に対しては、低汚染機能が十分に発揮されません。
- ・既存塗膜の剥離箇所は、既存のパターンに合うように既存塗膜の剥離仕様でパターン合わせを行ってください。
- ・防かび・防藻性は繁殖の抑制の効果を示すものです。施工部位の構造や形状、環境条件などにより、防かび・防藻性が十分に発揮されない場合があります。
- ・かびや藻が付着している場合は、「SKKカビ除去剤 #5 (塩素系)」にて拭き取るなど、適切な下地処理をしてから塗装してください。
- ・所要量は被塗物の形状、素地の状態、塗装方法、気象条件、希釈率等の各種条件により増減します。
- ・塗り重ね時間は環境(温度、湿度、換気、風通しやすさ)や膜厚によって変わります。
- ・低温又は高温時には、乾燥が遅くなりますのでご注意ください。
- ・補修塗りが必要な場合があります。また、補修用に使用塗料の控えを必ずとっておき、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- ・補修塗りの際、仕上がり肌の違いにより、色目に若干の差を生じる場合がありますので、部分的に仕上がりに確認した上で希釈率等を決定してください。
- ・刷毛で補修塗りを行う際、スプレー塗りやローラー塗りと同じ仕上がり肌の違いにより、色目に若干の差を生じることがあります。
- ・シーリング材の上へ施工する場合、シーリング材の種類、材齢により、塗膜が密着しないことや汚染することがあります。詳しくは最寄りの営業所までお問い合わせください。
- ・開閉が広いなど、大きな動きが予想されるシーリング打設部への塗装は、塗膜がひび割れる可能性がありますので、なるべく避けてください。
- ・陶磁器・タイル洗浄用の酸が塗膜面に付着すると、変色や溶解などの異状を生じることがありますので、これを防止するため、予め塗膜面の養生を行ってください。
- ・★クールテクトSi/Fは、ゴムやプラスチック等、可塑性を含む部位に直接触れると軟化や剥離を生じることがありますので、そのような場所への塗装は避けてください。また、アルコールや油脂分(人の手など)が付着すると塗膜が軟化し、色移りすることがありますのでご注意ください。
- ・塗膜の膨れ、割れ、白化の発生につながる場合がありますので、著しく結露が生じるような場所での使用は避けてください。
- ・最終養生の時間内に、降雨、結露などがあれば、塗膜の膨れ、割れ、白化、しみの発生、艶引きなどにつながる場合がありますので、塗装を避けるか強制換気などで表面の水分を除去してください。
- ・著しく結露を生じるような場所では、しみが発生することがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装を行う場合は、強制換気の上、溶剤系塗料での塗装を推奨いたします。
- ・結露等によりしみが発生した場合は、乾燥後に水拭きなどで除去してください。
- ・強風時、または降雨、降雪のおそれがある場合、及び気温5℃以下、湿度85%以上の施工は原則的に避けてください。気温5℃以下で施工が要求される場合は、探傷及び探傷のための養生により、雰囲気温度、被塗面温度を5℃以上にしてください。冬期においては、施工条件が特に厳しくなる場合があります。事前に関係者と十分な打ち合わせを行ってください。
- ・材料は使用前に内容物が均一になるように十分に攪拌し、開栓後は速やかに一度に使い切ってください。また材料を保管する場合は、無希釈の材料をしっかりと密栓してから直射日光を避けた冷暗所に保管し、できるだけ早めに使い切ってください。
- ・性能に支障をきたす可能性がありますので、当社指定以外の材料を混ぜないでください。



本社 大阪府茨木市中穂積3-5-25 ☎ 072-621-7733

札幌支店 011-784-4000 東京支店 03-3204-6601 埼玉支店 048-686-2391 北陸支店 076-266-1041 京都支店 075-646-3967 神戸支店 078-671-0451 高松支店 087-865-5411

仙台支店 022-259-2431 千葉支店 043-304-0411 横浜支店 045-820-2400 名古屋支店 052-561-7712 大阪支店 072-621-7721 広島支店 082-943-5043 福岡支店 092-629-3427

このウェブサイト掲載の商品は、予告なしに仕様や取扱いを変更することがあります。また、このウェブサイト掲載の内容について、無断転載・複製を禁じます。特記仕様がある場合は、これを最優先にしてください。詳しくは最寄りの各営業所へお問い合わせください。 [製作年月:2022年5月] (220515-Y-12)

URL <https://www.sk-kaken.co.jp>

